

かがわ高齢者家事サポートセンター 20周年記念レセプション 次第

1. 開 会
2. 来賓あいさつ
3. 20年の歩みスライドショー
4. 乾 杯
楽しい時間をお過ごしください。
5. 中締め
6. 閉 会



設立までの経緯

かがわ高齢者家事サポートセンター（以下、サポートかがわ）は、高齢者が「助けられたり、助け合う活動」を通して高齢者自らが福祉の社会化に参加することを目的に2005年4月1日に設立されてから20周年を迎えました。

高齢者同士が助け合うという初めての試みでもありましたが、退職者組織や関係団体の理解と熱い思いが実を結びサポートかがわが設立されました。設立に向けては設立2年前の2003年2月に香川県労働者福祉協議会による家事支援のニーズを把握するための「高齢者家事支援サービスに関する調査」を実施し

たことから始まりました。調査は高松在住の退職高齢者を対象に2117人にアンケート用紙を郵送し1,288人(60.84%)から回答を得ました。その分析結果をもとに、労福協理事会でサポートセンター設置のための検討委員会設置が確認され、検討委員には三好弘氏、吉田治氏、野網利秋氏、大谷克文氏の4名が選出されました。検討委員会では2003年12月の第1回をスタートに13回開催され、①サービスセンターの仕組みと流れ、②サービスセンターの業務内容、③家事支援サービスの具体的内容、⑤会員資格とサービス対象地域、⑥サービスセンターの設置場所、⑦会則、運営要領、⑧会員募集とパンフレット作成などについて、1年余り検討が重ねられました。その一方で、高松地域退職者団体連合会の全組織から各2名の委員の選出をお願いし、検討委員を含めた27名による設立準備委員会を発足させ、設立に向けた具体的活動、会員募集などについての協議が平行して行われました。準備委員会は、2004年7月から2005年3月のサポートかがわ設立まで6回開催され、会員の募集では各組織の努力で設立までに145名が会員に登録されました。設立までの多くの課題は、委員皆さんによる長期間の熱心な討議によって乗り越え、かがわ高齢者家事サポートセンターが設立されることとなりました。

設立総会は2005年4月1日、讃岐会館(現在のカミツキャピタルホテル)で開かれ、代議員30名が出席しました。総会では設立準備委員会を代表して山端政雄準備委員長から「高齢者のためのサポートセンターとして期待に応えられる活動を進めていく」と決意を訴えました。議事では①サポートセンターの会則、②運営要領、③保険加入、④事業計画・収支予算などが満場一致で承認されました。役員には山端代表、大谷事務局長をはじめ12名が選出されました。

2005年度は、設立初年度でもあり、サポート活動の推進、会員募集活動、会員相互の研鑽と交流活動を重点に様々な活動が展開されました。サポート件数は32件となり、会員は発足当初の145名から46名増え191名となりました。

会員相互の研鑽と交流では実技の向上をめざし樹木匠末澤先生を講師に小学校や公民館のボランティアもかねて「庭木手入れ」「障子張り替え」の実技講習を開催、「防災センターの見学・体験」、会報の発行など、会員の要望に応えるため積極的に取り組まれました。こうした初年度の活動が基盤づくりとなり、現在の活動に引き継がれています。